

OKoTaC 通信 NO.2

2011年12月10日発行

オコタツク



この号の内容

- 多文化な子ども@大阪のニュースp2
 - 『第7回ワールドトーク』『One World』
 - 『中国の集い』『多言語進路ガイダンス』p3
- 文化庁委託事業『外国にルーツをもつ子どもへの
日本語指導ボランティア養成講座 2011』報告 .p4
- Air Mail メキシコ便り② 『メキシコ国立自治大学』p5
- 海外子ども事情 『ニューヨーク市高校訪問記①』p6
- 地域の子どもの支援教室から②
 - 『こどもひろば』(大阪市天王寺区)p7
- イベント情報・事務所移転のお知らせp8





多文化な子ども@大阪のニュース

『第7回 ワールドトーク』

9月9日、市民交流センターすみよし北で、大阪市の帰国した子どもの教育センター校日本語教室の通級生と修了生の児童・生徒を中心に、ワールドトークが開催されました。

スピーチや司会をした生徒の他に、舞踊、ダンスの発表や、作文提出、また応援など、生徒56名、保護者13名、教職員、母語支援者等68名の計137名の参加でした。生徒の出身国は、フィリピン、タイ、ベトナム、ブラジル、ペルー、中国(発表言語は韓国・朝鮮語)、韓国でした。スピーチでは、生徒はそれぞれの母語で飾ることなく素直に自分の考えを述べ、たとえ母語の力が不十分な生徒でも一生懸命自分の思いを発表しました。アトラクションでは、タイ舞踊とフィリピンのダンスが披露されました。本格的なタイ舞踊に釘付けになり、また



フィリピンのダンスでは会場の全員を巻き込んで楽しく踊ることができ、母語は違ってもみんなが一つになって盛り上がりました。日本の生活では楽しいことばかりではない生徒たちですが、この日は思い切り発表したり交流したりできて、充実した1日となりました。

(K・M)

『 One World 』

10月8日、府立長吉高校において第4回 One World が開催されました。One World では、各高校に在籍する中国以外の国にルーツのある高校生たちが集まり、自分たちの国の料理を作って、みんなで試食をしながら交流を深めます。One World は各地区に点在している子ども達と同じ境遇の生徒たちと、普段は話せない悩みや思いを交わしたり、また自分の国のことをアピールしたりできる場でもあります。今年は、生徒・教職員など合わせて130名というたくさんの人が参加し、各国の料理を囲みながら交流を深めました。

午前中、食堂に集合した生徒たちは、それぞれ料理を作る場所に移動し、エプロンを身に付け、実行委員の生徒を筆頭に料理の下ごしらえから始めていきます。今年の料理のラインナップは、南米のブラジル風ドーナツ「SONHO ソニョ」、ポテトサラダ「CAUSA カウサ」。アジアに移れば、フィリピン風おかゆ&蒸しケーキ「Arroz Caldo アロスカルド & Puto プト」、タイのピナップル入りチャーハーン「カオ・パオ・サツパロット」、パパイヤサラダ「ソムタム」、ベトナムの揚げシュウマイ「BANH CONG バンコン」、アフガニスタンの焼き餃子「ブラニ」、そして、本場のスパイスを使ったネパールの「カレー&スープ」など、計11種類もの色とりどりの料理がテーブルの上に並びました。



ランチタイムになると、ぞろぞろと列を作りながら、全種類の料理をお皿にのせていきます。そして抽選で決まったテーブルに座り、各料理についての紹介を聞きながら、生徒たちは楽しそうに食べていました。やはり、「自分の国のが一番！」みんな、懐かしそうに故郷の料理を味わっていました。どの料理も個性的で、生徒たちが主体となって作ったからこそ、美味しくて素敵なものができ上がりました。

午後になると、南米、フィリピン、タイ、その他の生徒たちのグループ One World の4つのグループに分かれて交流会が始まりました。ゲームや話し合い、歌を歌うなど、各グループによって内容は様々でした。普段は日本語で話している生徒たちですが、このように母語で話せる場に参加し、生き生きとコミュニケーションをとる姿や、普段と違って言葉の不自由さがとれ、嬉しそうな生徒の姿が見えました。また、One World のグループでは、パワーポイントの写真を使ってそれぞれ自分の国を紹介し、わきあいあいとした時間を過ごしていました。

そして、終わりの会では、それぞれのグループでしたことを模造紙や口頭で発表しました。みんな、少し照れながらも、しっかりと自分達が取り組んだことについて発表していました。最後には、「We are the world」を会場のみみんなで歌い、思いがひとつになったような気がします。生徒たちが、One World への参加を通じて、「自分はひとりじゃないんだ」と感じてくれていればいいな、と思いながらこの行事を無事終えることができました。

(C・M)

『中国の集い』



大阪府立の学校で外国にルーツを持つ生徒、新渡日の生徒などの教育を推進する研究団体である「大阪府立学校在日外国人教育研究会(府立外教)」が主催する『中国の集い』が、府内4カ所で開催されました。これは府立高校に在籍する中国にルーツを持つ生徒達が集い交流をする催しです。11月12日(土)には旭高校、八尾北高校、成美高校の3カ所で、19日(土)には長吉高校を会場としてそれぞれ開かれました。

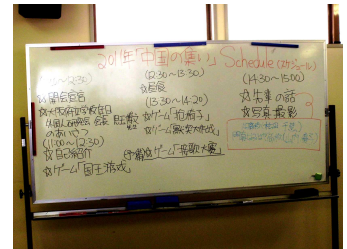
【中河内地区報告】

八尾北高校では布施北、花園、布施(定)、八尾北高校から生徒39名、付き添い教員等14名、計53名が参加しました。生徒実行委員会が事前に企画したプログラムで、司会進行も生徒自らが行います。11時から始まり、参加校紹介、参加者の自己紹介のあと、この日のために準備されたパフォーマンスが演じられました。八尾北のお笑いコント、布施北のすばらしい歌などが演じられ、交流を深めました。

昼食後、まず二人の先輩から就職、進学についての経験談を聞きました。このときばかりは、あれほどにぎやかだった生徒達が真剣に聞き入っていた姿が印象的でした。やはり経験をまじえた話は、教員の進路指導とは違った効果を上げたと思われます。その後はゲームや飛び入りの歌などで楽しみ、3時に閉会しました。

今回は、いわゆる少数在籍校の生徒を「つなぐ」ことも大きな目的でしたが、そのような学校からの参加者が笑顔で他校の生徒と話をしている姿を見ると当初の目的が達成されたと実感しました。生徒達がなごり惜しそうな声を残し帰って行く姿も印象的でした。

(Y.H)



【北河内地区報告】

旭高校に門真なみはや、住吉、旭高校から20名の高校生が集まって開催されました。これまでは100名を超える大規模な交流会でしたが、今回は少数ゆえの、お互い顔の見えるふれあいがありました。生徒がすべて企画・運営したこの交流会は、最初



の自己紹介から大いに盛り上がり、「国王游戏」(たぶん王様ゲーム)、「抢椅子」(きつと椅子取りゲーム)、「默契大作战」(フルーツバスケット??)などのゲームでは、生徒たちは所狭しと走り回っていました。

最後には、卒業生が、大学のこと、就職のことなどについて体験を語ってくれました。生徒たちは、先ほどのゲームとは打って変わって真剣に聞き入り、多くの質問も出ていました。すべて中国語であったので、その内容はよくわかりませんでしたが、

見ていてこちらも楽しくなるような素晴らしい交流会でした。

(Y.O)

『多言語進路ガイダンス』

10月から12月初旬にかけて、大阪市を含めて府内8カ所の地域で、多言語による進路ガイダンスが開かれました。

各地区のガイダンスは、プログラムや進行方法が異なっていますが、大阪府教育委員会が多言語で作成した『進路選択に向けて』の資料を参考に、大阪府立高校、入試制度、学費、奨学金制度、24年度の入試日程などについての説明がありました。年々参加者が増えている中、一番好評なのは、高校入試の壁を突破して、高校生になった、さらに大学生になった先輩の話です。参加者は、「私も高校に行こう!」と頑張れるエネルギーを先輩たちから貰っています。

ここ6年ほど各地域のガイダンスに参加して感じるのは、フィリピン語の子どもたちが他の言語に比べて随分増えていることと、多言語化が進んでいることです。大阪府教委によると、今年の高校進学率は83.5%でしたが、日本人生徒の高校進学率に比べるとまだまだ低いです。外国にルーツを持つ子どもたちが、元気に日本社会で活躍できるようになるため、高校には是非進学してほしいと願っています。

(Y.M)



おおさか子ども多文化センター 活動報告

23年度文化庁「生活者としての外国人のための日本語教育」委託事業 「外国にルーツをもつ子どもへの日本語指導ボランティア養成講座 2011」

9月10日から10回シリーズの講座が始まりました。

第1回は、元東京女子大学教授西原鈴子先生をお招きし「子どもが二つの言語に出会うとき」というタイトルで公開講座を持ちました。土曜日の午前中という時間帯でしたが35名の参加をいただいたの開会となりました。

最近の傾向として全国各地で、子どもへの日本語指導ボランティアに関する講座が毎年どこかで行われていますが、今回の大阪もその一つで、長年日本語指導に関わってこられた先生の、専門的に整理されたお話を皮切りにスタートした次第です。熱心に聞き入っておられる多くの方々の姿に今更ながらこのテーマへの関心の高さを感じました。アンケートから「外国人の子どもへの日本語指導における基本的な姿勢、考え方、方法などを学ぶことができました」etc という声を頂戴しました。



9月17日第2回、24日第3回は、大阪府教育委員会日本語教育学校支援専門員の安田乙世先生による「日本語教師に学ぶ 日本語指導の基礎Ⅰ及びⅡ」でした。先生のメリハリのきいた説明と大阪弁を交えた絶妙な「間」が感じられるトークで、日本語指導にあたっての具体的な留意点をしっかりと伝えていただきました。アンケートから「私にもできるかな?と思うきっかけになりました。」etc と言う声が届きました。グループ討議も増えるにつれ、参加者同士の名前もぼちぼち覚えはじめ、いい雰囲気になってきました。



第4回からは、それまでの基本中の基本!と言う話から一転して、公教育の現場で現在子どもたちの日本語教育に取り組んでおられる方々から実態をお話しいただきました。第4回は、大阪市教育委員会登録日本語指導協力者の吉田美美先生が、帰国・来日間もない小学校1年生から3年生の子どもたちへの学校での週1回×25回のプログラムを元に講義されました。そのお話から、大人の日本語教室とは異なり、相手が低学年の子どもならではの工夫やふれあいの必要性を学びました。

第5回は、大阪市立豊崎中学校「帰国した子どもの教育センター校」日本語・適応指導担当の矢嶋ルツ先生をお迎えました。大人と子どもの狭間にいる年齢層の子どもたちが、自分ではいかんともしがたい大人の事情に翻弄されながらも、難しい友人関係作りに心をくだきつつ、在籍校や日本語教室で日本語・日本文化を学んでいます。そしてさらに母語を共有する「母語教室」で学び、中学校卒業後の進路に向けて歩んでいます。先生のDVD視聴を交えたお話しに、子どもたちが苦しい状況の中でも明るく努力している姿の一端がうかがえ、また幅広く支援されている先生方の姿もはっきり見えました。参考にとお知らせいただいた「理科のリライト教材」も大変好評で、翌週の月曜には早速問い合わせが殺到したという嬉しい後日談もあります。



第6回は、大阪府立長吉高校で日本語指導に携わっている柳澤勤先生から、高校生への日本語指導の実際についてお話を伺い、公立高校入試における外国人特別枠や配慮事項などについても分かりやすく説明していただきました。日本語の作文指導における具体的な例では、話し言葉をそのまま書き言葉として表記してしまう例や、濁音、長音の表記間違いの例などが示され、なるほどと思いついた場面もありました。

第7回以降は、4・5・6回の学校現場の話から、地域や当事者へと視点を巡らした講座となります。今回はここまでとさせていただきます。7・8・9・10回については、11月26日第10回を終えてから、また、お知らせしたいと思います。(Y.T)



海外からのたよりをお届けします～

メキシコ便り②『メキシコ国立自治大学』

(おおさかこども多文化センター会員・金野広美)

私の通う大学はメキシコシティの南方に位置するメキシコ国立自治大学です。そのなかの外国人のための学部に通学するのですが、ここにはスペイン語コースと文化コースがあります。文化コースには美術史、歴史、社会科学、文学の各コースがあり、春季、夏季、秋季と年3回の入学機会があります。私が入った秋季スペイン語コースは世界各国から約100名の入学でした。多いのは中国、韓国、日本でそれに続き、アメリカ合衆国、ブラジル、フランス、ドイツ、といったところです。ここメキシコ国立自治大学はとても広く、現代美術館、博物館はもとより、建物の4面を世界最大の壁画で覆った中央図書館、映画館、コンサートホール、サッカースタジアム、小さな森などがあり、道路はタクシーをはじめ、各学部をつなぐ巡回バスが縦横無尽に走り回っています。ラテンアメリカ随一の規模というだけあり、まるでひとつの街のようです。

ここに通うのに私が毎朝乗るのが地下鉄。学校まで25分間かかるのですが、まったく飽きることがありません。というのは、乗っている間中、色々な物売りが通るのです。あめやお菓子にノート、電池にライターに縫い針、そして、大音量で音楽をかけながら、CD売りが次々やってきます。勝手にコピーをしているのでしょうか、1枚10ペソ(日本円で約100円)です。先日はギターとケーナとサンポーニャを持った2人の若者がきれいなハーモニーでジョローナ(泣き

女)を歌っていました。あまりにうまかったので、多くの乗客がお金を渡していました。そんななか、一人のおばさんは5ペソ渡して、しっかり3ペソおつりももらっていました。すごいでしょ。世界中どこでもおばさんは強い！ そのほかには、目の不自由な人が、腰に紐でコップをつけ、ギターをかかえたり、ピアノを演奏しながら、よろよろと歩いてきます。なかにはお客がコップにいられた小銭を鳴らしてリズムをとりながら、しょぼい歌をうたっている人もいます。運転が下手というか荒っぽいのか、(私はこっちだと思いますが)車両が悪いのか、とにかくよく揺れる地下鉄なので、思わず、手をさしのべてしま

いました。これだけ揺れると大変な重労働だと思いますが、それでも慣れていいのか、ひっくり返ることもなく、次の車両に移っていきました。

このように多くの物売りや流しの人たちが、地下鉄で商売をするのも、ここの地下鉄がとにかく安いのです。どこまで乗っても2ペソ(約20円)。どこをどう乗り換えようが、一日中乗っていても改札さえ出なければ、2ペソで済むのです。乗客もよくコップにお金をいれたり、CDを買ったりしています。結構いい商売になるのかもしれませんが。そしてあとひとつ、いかにもメキシコらしいのは、女性専用車です。朝のラッシュ時、プラットホームの前から4両目のところに、大きな柵をたてて、ガードマンが立っています。柵には女性だけ通っていいと書いてあります。なるほど、このように見張られていては、日本のように、いくら女性専用車両と決まっても、気づかなかったり、気づかないふりをする人も出ないから徹底できると感心しました。そして、おまけに3両分もあるので感動しました。メキシコのように万事がええかげんなところで、この徹底ぶりはすごい！と感心したのもつかの間、次の乗降客の少ない駅ではホームに誰も立っていません。当然男性は入ってきますから結局は、日本と同じ結果になりました。チャンチャン。ここはメキシコ、やっぱりそんなわけはないわな一と、妙に納得させられた私を乗せて、地下鉄は揺れに揺れながら、音楽満載で今日も走り続けるのでした。





海外子ども事情

『ニューヨーク市高校訪問記 ①』

(桃山学院大学国際教養学部、

おおさかこども多文化センター 会員・友沢昭江)

今年3月ニューヨーク市の移民子弟の受け入れで実績をあげている高校を見学する機会がありました。日本で同様の取り組みを行っている方々に参考になればと訪問記を記すことにしました。連載は3回の予定で、まずはニューヨーク市の教育制度、2回目と3回目で二つの高校を取り上げます。

ご存じのようにアメリカ合衆国は多民族多文化を誇る移民国家です。建国以来移民の受け入れを継続しており、人口減少に悩む日本と異なりアメリカは2005年に3億人を突破し、以後も人口は増加しています。移民などの外からの流入と出生率の高さが要因とされますが、アフリカ系を抜いて最大のマイノリティー集団となったヒスパニックは若年層が厚くカトリック信者も多いことから、今後もアメリカの人口増加を担うと考えられています。



ニューヨーク市は人口839万人(2009年)の全米最大の都市です。アメリカの北東部や中西部の大都市の人口が減少していくなか、毎年人口が増加している珍しい例です。総人口のうち外国生まれが300万人を占め、彼らの出身国は200、言語も200を数えます。家庭で英語を話す人はほぼ半数(51.9%)で、それ以外は英語以外の言語も話しており、24.5%は「英語が堪能(proficient)」だが、そうでない人も23.6%(数でいえば184万人!)もあり、その母語としては①スペイン語(92万人、50%)、②中国語(28万人、15.2%)、③ロシア語(13万人、7.1%)、④韓国語(5万2千人、2.8%)、⑤フレンチクレオール(4万7千人、2.5%)が上位を占めています。



こうした多言語状況を反映して、多様かつ柔軟な教育行政を担っているのがNY市教育局(NYC Department of Education、DOE)です。DOEは年間240億ドル(約2兆円)の予算をもち、110万人の生徒、1,700校、教師75,000名を抱える全米一の組織です。アメリカでは学齢は、K(kindergarte:日本の幼稚園)—5年生(Elementary Schools:小学校、6年間)、6年生—8年生(Middle Schools:中学校、3年間)、9年生—12年生(High Schools:高校、4年間)となっていて、ここまでが義務教育です。「高校中退率(Drop Out)」が大きな関心となるのは、それが義務教育だからです。

NY市では25万6千人の高校生が、700を超えるプログラムを組んでいる400の公立高校で学んでいます。その中には非常に優秀な生徒のみが入学を認められる特別校(Specialized High Schools)9校もあれば、社会経済的に恵まれない家庭の生徒や、数日前にアメリカにやってきた移民の子どもが学べる学校まで、あらゆるニーズに対応できる体制が整っています。

高校進学希望者はまずは500頁を超える進学ガイドブックの最新版(インターネットでも入手可能でスペイン語、中国語、アラビア語など9言語に対応している)を入手し、自分に一番合っている学校(12プログラムまで希望先を指定できる)を選び申請書類を提出します。NY市の5つの行政区ではガイダンスやワークショップが開催され、進学相談員からアドバイスを受けたり、教育局の進路相談担当者に随時連絡をしたりすることもできます。重要な役割をもつガイドブックにはすべての学校に関する詳細なデータが掲載されており、その中には学校の評価も含まれます。生徒の成績の向上の度合い、出席率、中退率、学習環境の改善への取り組み、生徒、教師、保護者を対象とした評価アンケートの結果、数年に1度行われる第三者による評価レポートなどすべてが公開されています。

トップ9校の1つである音楽芸術系の高校への進学希望者は、その分野の能力がオーディション形式で試され、また科学教育の名門校などは中学の成績と市の試験結果が求められます。(昨年度の実績は芸術系の場合、11,000名の応募に対して入学許可は962名、科学系は19,600名の応募に対して1,044名でした)。一方、説明会に出席し、申請書を提出するだけで受け入れが認められる学校もあり、生徒の関心と能力、学び方の志向などにより9種類の多様な選抜方法が用意されています。学校側はさまざまな事情を考慮して、なるべく生徒が第一希望のプログラムで学べるように決定を行います。「Equity and Choice(公正と選択の自由)」という教育の信念が400校すべてにおいて実現できるように配慮されていることが分かります。(つづく)

.....

多文化子ども あつまれ!



～地域の子ども支援教室から～ ②

『こどもひろば』(大阪市天王寺区)

設立7年目の「こどもひろば」は毎週月曜、夕方から始まる。小学生から高校生まで、それぞれ学習したいことを鞆につめて、手には休憩時間のオヤツを持ってやってくる。彼らは日本生まれであったり、つい先月来日したばかりであったりする。迎えるボランティアスタッフも10代から人生の大先輩まで、主婦、学生、会社員、教職経験者など様々だ。



座る間もなく学校であったことを声高に話し始める子、静かに宿題や日本語の課題に取り組む子。ここで知り合った、同じ外国ルーツの仲間とふざけて、スタッフに叱られることもある。「教室のルールは守る」「周りに迷惑をかけない」そんな注意が必要なことも多い。時には手ぶらでやってくる中学生、走り回って全く学習しない中学生にスタッフ全員で「どうしたものか」と対応に悩むこともあるが、こどもひろばが居場所になっていることは紛れもない事実だ。

日本語・教科学習支援と居場所づくりを目指して「<ことばの会>もりのみや」と同じ教室で立ち上げたのは2005



年春だった。それから毎年、日本語と英語と数学と、決して休むことなく頑張る15才以上の子どもたちが数人居る。当初予想していなかった「ダイレクト」と呼ばれる存在だ。母国で中学を卒業して、来日する彼らは日本の中学校に入ることはできない。時には高校に行けることをスタッフから初めて聞かされることもあった。制度の狭間で、どこにも行けない、居場所も所属もない彼らが「高校へ行きたい」と切望する。我々スタッフは、日本語はもちろん、高校進学のための情報が全く無い彼らに「あ

いうえお」から始め、受験制度、高校紹介、と情報提供し、様々なアドバイスを。そして英語と数学を黙々と一緒に学習する。教室で出会った同じ立場の「仲間」と、母語で得意な科目、問題を教え合っ、入試まで頑張っている。日本語がうまく覚えられないときは上手な子がスタッフの言葉を通訳する。もちろん中学校に行っている子どもたちも一緒に高校入学を目指す。そして3月、合格の朗報メールが飛び交うのだ。

今、こどもひろばでは当事者スタッフとして、外国ルーツの高校生や大学生がボランティアをしている。彼らの経験は何より貴重で、そのアドバイス、意見は説得力がある。そんな彼らが支援する側にまわることでまた一段と成長する。今後どんな人生を送るのだろうかスタッフ一同、楽しみだ。(事務局長 鵜飼聖子)

問い合わせ先: (財)大阪国際交流センター 情報企画部

TEL 06-6773-8989 FAX 06-6773-8420



イベント情報

～おおさかこども多文化センター、および関係団体主催のイベントです～

▼「WaiWai! トークPart2」

外国にルーツを持つ高校生が母語・継承語で自分の思いや願いをスピーチします。流暢に話す生徒、たどたどしいけれども一生懸命話そうとする生徒、いずれもその内容は重く、感動を与えてくれます。

日時：2012年1月21日(土) 13:30～16:30

場所：大阪府立住吉高等学校（大阪市阿倍野区北島2-4-1）

主催：大阪府立学校在日外国人教育研究会（府立外教）

※参観を希望する方は府立外教（メール furitsugaikyo@nifty.com）までお申し出ください。

▼「トランスナショナルな子どもの教育を考える～外国にルーツを持つ若者からのメッセージ」

毎年恒例の「ワンワールドフェスティバル」で、外国にルーツを持つ若者たちがパネルディスカッションを行います。次世代の多文化な子どもたちへ、そして日本社会へメッセージを届けます。

日時：2012年2月4日(土) 10:00 から（2時間程度）

場所：大阪国際交流センター（大阪市天王寺区上本町8-2-6）

主催：大阪大学グローバルコラボレーションセンター、(特活)多文化共生センター大阪、

NPO 法人おおさかこども多文化センター

事務所移転のお知らせ

4月から事務所として使っている piaNPO ビルが、耐震建築法の基準に適合しないので、平成24年1月末をもって閉館されます。1月末退去の件を知っての上の入居でしたので、常々移転先を探していました。条件としては、交通の便の良い所、活動に関係ある他のNPO団体と一緒に入居できる事、経済的な賃貸料などで、下記のところに決まりました。

移転先：大阪市西区西本町1-7-7 高砂堂ビル 8階

1階が和菓子の高砂堂の店です。地下鉄四ツ橋線本町駅27番出口すぐ、

御堂筋線本町駅8番出口徒歩4分、中央線本町駅20番出口徒歩2分

移転は来年1月末に予定しています。電話、FAX番号、メールアドレス osakakodomo@gmail.com は、いずれも変更ありません。また、大阪府教育委員会の委託事業である『ピアにほんご』の電話・FAX 番号 050-3513-1497、メールアドレス center@pianihongo.org も変更ありません。

移転後もどうぞよろしくお願いいたします。



NPO 法人 おおさかこども多文化センター

代表 村上 自子

〔1月末まで〕〒552-0021 大阪市港区築港2-8-24 piaNPO 421号

Tel / Fax 06-6586-9477

E-mail osakakodomo@gmail.com

URL <http://www.osakakodomo.sactown.jp>

郵便振込 【記号】14140 【番号】68893051

（他金融機関からは【店名】四一八（ヨシイハ）【店番】418

【預金種目】普通【口座番号】6889305）

口座名義『NPO法人 おおさかこども多文化センター』

〔リガナ：トクビ）オオサカコドモタブンカセンター〕

地下鉄中央線「大阪港駅」下車

④出口から西へ300m

